

## 【 厳冬期の防災について 】

### (一) 防災・減災対策について

#### (1) 厳冬期の防災について

厳冬期の防災について、伺います。

東日本大震災から 3 月 11 日で 10 年が経過します。

先月、2 月 13 日の深夜に福島県沖を震源とするマグニチュード 7.3 の地震が発生し、福島県や宮城県では震度 6 強を観測。幸いにも震源地が地下 55km と深かったため津波の被害はありませんでしたが、10 年前に発生した東日本大震災の余震とのことで、当時の記憶が蘇るとともに、改めて自然の驚異を感じた次第ではありますが、福島、宮城両県の自治体では、3 密を避けるなど、新型コロナウイルス対策を徹底しながら避難所運営が行われていたようであります。

道においては、『平成 30 年胆振東部地震検証報告書』からの提言や『厳冬期における避難所運営訓練』の成果を踏まえるとともに、新型コロナウイルスを含む『感染症対策』を加え、昨年 5 月に『北海道版避難所マニュアル』を改正したと承知しております。

胆振東部地震の災害検証報告書でも、こうした大規模災害が厳冬期に発生した場合の備えの重要性については提言されております。更に、コロナウイルス等の感染症対策が加わりますので、万全な対策が求められます。

昨年1月に、北見市で『厳冬期における自然災害による大規模停電の発生』を想定した訓練を行い、『備蓄の再検討』、『トイレの問題』、『ゾーニング』、『暖房機器の設置再検討』など、多くの課題が確認されたとお聞きしています。

その課題も踏まえながら今年度は1月30日に恵庭市において、『厳冬期の地震を想定し、学校施設での新型コロナウイルス等の感染症対策を講じた避難所訓練』を行ったと承知しております。

これらの検証結果を含めた課題などについて、道内全域に取組を広げ、対策強化をしなければならないと考えますが、道の見解を伺います。

### (答弁：危機管理監)

・近年、災害が頻発し、また、避難時の感染リスクも生ずる中、厳しい冬を迎える本道では、避難に当たって想定される様々なリスクから道民の生命を守る万全の備えが重要。

・このため本年1月、新型コロナウイルス等を含む感染症まん延下の冬期の夜間、地震で大規模停電が発生したとの想定で学校に避難所を開設し、殺到する避難者への対応手順を確認するとともに、体育館や教室の仮設暖房による温度や湿度変化を計測するなど、効率的な暖房や避難所環境について検証を行った。

・こうした検証を通じ、迅速な避難所開設には住民や施設管理者の協力が不可欠

であることや、換気に伴う温度、湿度の低下といった課題が明らかになった。

・道としては、検証結果が、全道で広く共有されるよう、直ちに資料や動画にまとめ道民の皆様へ情報提供を行うとともに、市町村に対し、この検証結果を踏まえた住民主体の避難所開設訓練や事前の除排雪など、地域の実需に応じた独自の取組を促すなどし、厳冬期の災害対応力の強化に取り組んでまいります。